

(様式1)

## 平成25年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 148	提案機関名 神奈川県畜産会養鶏部会
<b>要望問題名</b> 鶏ふんの活用について	
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 鶏ふんの処理、堆積施設は概ね整備され、それに伴い、製品も素晴らしいと考えられるたい肥が生産されています。しかしながら、利用面に於いては、滞りが観られます。鶏ふんは使いづらい、化学肥料で検討した方が無難だよ等が聞こえてきます。 一方、金肥は経費がかかるので鶏ふんを利用するとコスト減となるとの意見もあります。 そこで、簡易に鶏ふんを利用できる作目の種類、方法、簡易な利用法等問題なく鶏ふんを利活用できるシステムの構築をお願いします。	
<b>解決希望年限</b>	1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> 2～3年以内    4～5年以内    5～10年以内
<b>対応を希望する研究機関名</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> 畜産技術所    水産技術センター 自然環境保全センター
<b>備考</b>	

ここから下の欄は、回答者が記入してください。

<b>回答機関名</b>	農業技術センター畜産技術所	<b>担当部所</b>	企画研究課
<b>対応区分</b>	実施    実施中 <input checked="" type="checkbox"/> 継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> 実施済    調査指導対応    現地対応    実施不可		
<b>試験研究課題名</b> ( 、 、 の場合) 鶏ふん堆肥の窒素成分安定のための堆肥生産条件(平成13年度三重県農業研究所研究成果) 鶏ふん堆肥における尿酸分析による可給態窒素量の迅速推定法(平成13年度三重県農業研究所研究成果) 鶏ふん堆肥における尿酸態窒素の簡易定量法(平成14年度三重県農業研究所研究成果) 排泄直後の鶏ふんの試料採取法と尿酸態窒素含有量(平成15年度三重県農業研究所研究成果) ウィンドレス鶏舎から尿酸量の一定した排出ふんが得られる(平成15年度三重県農業研究所研究成果) ウィンドレス鶏舎の排出ふん中の尿酸態窒素量はほぼ一定である(平成15年度三重県農業研究所研究成果) 鶏舎における鶏ふん中の尿酸態窒素の分解抑制法(平成17年度三重県農業研究所研究成果)			
<b>対応の内容等</b> ご要望のように鶏ふんは、窒素を含んだ化成肥料の代替えとして利用することが可能であります。しかし、鶏ふん堆肥中の尿酸態窒素含有量により窒素の肥効性を左右する可給態窒素含有量が変動することが明らかとなっております。このように「鶏ふん堆肥」と言っても、窒素の肥効性が異なるため、「鶏ふんは使いづらい、化学肥料で検討した方が無難だよ」とのお声をいただくのではないのでしょうか？鶏ふん堆肥の尿酸態窒素と可給態窒素との関係を明らかにした研究成果が多数ありますので情報提供いたします。また、鶏ふん堆肥を利用できる作目の種類、方法、安易な利用方法等、本所との研究連携を図っていきたくと考えております。			
<b>解決予定年限</b>	1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> 2～3年以内    4～5年以内    5～10年以内		
<b>備考</b>			